



今日のことば

戦争を知ってるやつが居る
うちなら安心だ
戦争を知らない世代が日本
の中核になった時が怖い

田中角栄

愚かさを知らされる歩み

「戦争を知る世代」が伝えてきたのは、単なる悲劇の記録ではありません。それは、極限状態において人間がどれほど残酷になれるかという「自らの愚かさ」の告白でもありません。その生々しい痛みの記憶が、かろうじて私たちの暴走を止める「重石」となっていたのです。しかし、浄土真宗が説く人間の姿は「煩惱具足」――

――すなわち、条件さえ整えば、いつでもどこで牙を剥くかわからない危うさを抱えた存在です。戦争を知らない世代が社会の中核を担うとき、最も恐ろしいのは、歴史を知識としてのみ受け取り、私たちが「自分たちは分別のつく、正しい人間だ」と自惚れてしまうことではないでしょうか。「自分はあるな過ちは犯さない」という過信こそが、実は最も戦争に近い心境なのかもしれません。



自らの闇に無自覚な「正義」ほど、容易に他者を排除し、争いの火種となるものはありません。親鸞聖人は「さるべき業縁の催せば、いかなるふるまいもすべし」と説かれ、縁さえあれば何をしでかすか分からない自らの身の事実を深く見つめられました。私たちは今こそ、先人の痛みを「終わったこと」として完結させるのではなく、今ここにある自らの「愚かさ」を照らし出す光として受け止め直す必要があります。「まだまだ、自分は分かかっていない」と自らの危うさを仏様の眼差しに知らされ、その中で「申し訳ない、ありがたい」と頭を下げる。この終わりなき歩みのなかにこそ、他者と共に生きる真の平和への道が拓かれているのです。

修 嚴 会 経 堂 祠

日時 6月14日(日)～15日(月)

いずれも午前9時30分より4時まで

14日のお昼には尼講によりオトキ(昼食)の接待があり

15日のお昼にはお寺でオトキをお出しさせていただきます。

お説教は高岡市長敬寺信行寺住職 梨谷 真嗣さんがされます

祠堂受付中

常入寺では亡き人を偲びお寺の維持や仏教が広まることを目的とした寄付を祠堂といいますが、身内が亡くなられたことを縁としてされることが多いです。いつすればよいのですかと聞かれることがありますが、寄付ですのでしなくても構いませんし、いつでもいいと思います。思い立ただければよろしいです。また金額も決まってお入れください。祠堂しようというお気持ちがお寺にとつてこの上ない喜びです。常入寺では祠堂を頂いた方々に祠堂のお勤めを祠堂経会の初日にまとめてさせていただきます。今年も祠堂経会の時に出るだけ早くお申し出ください。準備の都合上、祠堂経会の当日祠堂にいたいてもお勤めできないこともございます。ご了承ください。

同居されているかたがおられるのならば、できますれば皆さんでお読みください

御文をいただく 其の七十四 五帖目第十通⑤

聖人 一流の御勸化のをもむきは信心をもて
 本とせられ候 そのゆへはもろもろの雑
 行をなげすてて一心に弥陀に帰命すれば
 不可思議の願力として 仏のかたより往
 生は治定せしめたまふ そのくらいを一
 念発起入正定之聚とも釈し そのうへの
 称名念仏は如来わが往生をさだめたまい
 し御恩報尽の念仏と ころうべきなり あ
 なかしこあなかしこ

祠堂経会を当寺で勤めさせていただきますので、
6月14日(日)〜15日(月)は皆様のお宅への**月参りは休止**
します。
 祠堂経会のお勤めと併せて本堂にてお勤めさせていただきますので是非とも祠堂経会にお参りください。ご理解いただきますようお願いいたします。またどうしてとも言われる方は前もってお寺まで電話ください。日の変更などの対応をさせていただきます。

お願い事から 感謝のお念仏へ

私たちは日常、つい「病気が治りますように」などと、願い事を叶えてもらうためにお参りしてしまいがちです。
 蓮如上人が『御文』五帖目第十通で示されたお念仏の本質は、そのような「お願い事のための念仏」ではなく、阿弥陀さまへの感謝を表す「御恩報尽(の念仏)」です。
 だからといって、お願い事をする事自体がいけないわけではありません。日々の不安や切実な願いを抱えて手を合わせることは、仏さまと縁を結ぶ大切な「入り口」となります。

大切なのは、その願いをきっかけとして、私たちが願うよりも先に「必ずあなたを救う」と約束してくださっている阿弥陀さまの大きな慈悲に気づかせていただくことです。

「どうぞ救ってください」という願いの入り口から、一歩進んで「そのままのあなたを救うよ」と届いてくださっていただいたのだ」という感謝のお念仏に出会っていく。そんな、願いから感謝へと深まるお念仏の喜びを、ともに歩ませていただきます。



【あとがき】今期の朝ドラも結構主体的に見ています。最初はちらほら観る程度でしたが、今ではすっかり習慣になり、毎朝見逃せない状態です(笑)。作中で「看護には観察が必要」と紹介されていました。この「観察」の元となった英語は「observation(オブザベーション)」です。実は明治時代にこの言葉を翻訳する際、仏教の「心の眼で物事のありのままの姿を正しく見極める」という概念(かんざつ)が当てはめられたのだそうです。単に目で見ただけでなく、相手の苦しみや変化に深く寄り添うという看護の原点が、仏教の智慧とつながっていることに深い感銘を受けました。いろんな所に仏教の心が知り得る機会がありますね。私たちもいろいろ観察をしなくては…

発行 真宗大谷派 常入寺
 電話 930-0161 富山市東老田787
 住職携帯 (076) 436-0816
 発行責任 青井 和成
 090-3764-3983
 LINEはこちらから↓
 〻お参りの変更
 〻法事の相談
 〻その他
 〻ご質問はこちらから↓

